

# 郷土の会だより

発行責任者  
岡村昭則

## 第九回 ウォーキングサークル 粕壁宿

六月一日、春日部駅東口に11名が集合。まずは、観光案内所に向かう。ここで田中さんが予約して下さったガイド・ボランティアの方々と合流して、街案内のビデオや、パンフレット類を見て、出発準備。古利根川に向かい、川手前の田村商店へ。今は、日用雑貨を扱う店ですが、日光道中側はお店で、古利根川に向かつて蔵が数棟建っている。内部も見せていただきました。日光道中に戻り、北へ向かい、途中丸八酒店、永嶋商店など、同じように店裏に蔵の続く建物を見ながら、最勝院へ。此処は明治時代に有った馬車鉄道の出発地とのこと。左奥へ進み、春日部重行の墓（古墳）を見る。次は隣接している、成就寺へ。本殿裏側から、十二支の夫々の本尊が有ることでしたが、ほの暗く私には、余り良く見えませんでした。新町橋を渡り、小淵の一里塚道標を見て、脇道を進み、合祀されて名前も、八坂香取稻荷神社の前へ。古利根川土手に戻り、公園橋の馬車鉄道のレリーフを見て、古利根川を渡り、日光道中に戻り、東陽寺へ。芭蕉が立ち寄った・・・？とか言い伝えがある寺ですが。少し北へ戻り、郷土資

料館へ。此処で粕壁宿の街模型を前に館長から説明、解説を受ける。此処でボランティア・ガイドさんとお別れ。ありがとさまでした。館内ロビーで昼食、休憩。都合により3名が帰宅の途へ。残る11名は東八幡神社を見て、土手沿いを南へ進む。川風を受け桜並木の木陰を歩き一ノ割駅方向へ。4キロ位で駅に到着し駅前のコーヒーストップで休憩。話は色々はずみ、一時間ほど過ぎ、本日のウォーキング終了。お疲れさまでした。



『ウィキペディア』 粕壁宿

粕壁宿(かすかべじゅく)は、江戸時代に整備され、栄えた宿場町の一つで、日光街道の江戸・日本橋から数えて4番目の宿場である。現在の春日部駅北口の旧街道一帯が、かつての粕壁宿である。

宿駅として成立したのは元和二年(1616)。

古利根川を通じて、江戸と結んだ物資の集散地として栄えた。尚、江戸・日本橋から一日歩き通すと、ちょうど1泊目となる宿場町がこの粕壁であったことから、旅人の多くはここで宿を取ったようである。天保14年(1843)の調査では本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠45軒、問屋場ヶ所、家773軒があり、規模は23宿のうち6番目であった。街道沿いには青物店、穀物店、精米・精麦店、飲食店などが建ち並び、4と9のつく日には六斎市が開かれ、地域経済の中心地となって発展した。近年の急速な都市化でかつての宿場町としての面影は薄くなっているが、当時から商家もいくつか残っている。

地名の由来「かすかべ」の表記は何度か変更されている。南北朝時代(14世紀)、新田義貞の家臣春日部氏が当地を領地としたことから「春日部」の地名が生まれたとされるが、その後江戸時代正保年間(1645年頃)には糟壁、糟ヶ辺という表記が交互で使われており元禄年間(1700年頃)に粕壁、糟壁と記す漢字表記が明

治初期あたりまで交互に使われていた。高橋至時・伊能忠敬らによる大日本沿海輿地全図では粕壁と記されている。明治期に大区小区制を施行してから粕壁という漢字表記に統一したと思われる。東武鉄道の春日部駅も開業時から1949年まで粕壁駅という漢字表記で使われていた。2014年に南埼玉郡粕壁町と同郡内牧村が合併した際に南埼玉郡春日部町とし、表記を改めた。春日部駅は「春日部市粕壁1丁目」にある。



「専科一期校友会HPバ ジョンアップ 検討会」ホームページ委員(6月4日開催)

出席者 岡村昭則、田中 忠

2Fの印刷室を使って午前中、専科校友会ホ

ームページバージョンアップ検討会は、6名のホームページ委員が参加して開かれました。検討会で次のことが検討されました。

原稿収集については、二十二年度公開学習・講座、伊奈連協事業、県連協事業は専科校友会会員が参加する事業についてのみ取材をしてホームページに掲載する。原稿収集は校友会理事会で取材担当を決めて行う。但し、コースのことは各コースのホームページ委員が行う。

文章と写真を別々にメールで編集委員に送る。

専科として編集委員を置いて、そこで原稿を調整して当面は、17期鈴木さんに送る。専科二期ホームページが始動するようになると一期ホームページ委員が掲載するまでにレベルアップを図る必要がある各コースの記事は別にしても全体的なことは当面、岡村が調整します。

毎月一度開いている「専科一期校友会HPバ ジョンアップ検討会」に専科二期ホームページ委員を参加させて一緒に専科ホームページの勉強していくことになりました。その前段として六月十四日、午後五時から専科一期ホームページ委員の岡村が二期ホームページ委員への説明することになりました。一緒に勉強することになると、人数も18人を超えることから部屋の確保が必要ことから学園にお願いして一応の内諾を得ました。

専科一期と二期が合同で会議をもつのは、専科校友会ホームページは、それぞれが単独でホ



ホームページを開設するのではなく、一つのホームページ内で編集・掲載方式で行くためです。メーリングについて、「ミニミニ通信」を送っても、パソコンが開かないという状況が見受けられますので、その場合はホームページを開いてみることをアドバイスすることにしました。午後から、ホームページを開設していない委員の立上げをサポートしたり、開設している委員のレベルアップを図るために、専科一期ホームページ委員だけでホームページ立上げについて研修しました。次回からこの研修を続けて行くことを確認して散会しました。



### 卓球部だより第一号

私たち卓球部は、専科第1期の部活の時は部員17名でしたが、卒業後に新規加入希望が続き、現在22名となっています。これは卓球以外にさまざまな催し物を行うことが評判になっているのではないかと思います。

平成22年度の催し物第1弾は、鎌倉ハイキングでした（企画は有村さん、天谷さん）。

6月7日（月）午前9時、大宮駅に集合したのは19名。湘南ラインで約1時間半、北鎌倉駅に下車。最初の訪問地は「あじさい寺」の別名を持つ明月院です。ここの拝観料は、時期による変動相場制であり、この日は500円。嫌な予感がしましたが、案の定、あじさいは満開にはほど遠い2分咲きといったところか。これが満開ともなれば人、人、人で身動きできなくなるどころですが、今日はスムーズ。早々に次の目的地へ。

浄智寺の脇を登った海拔100m程の山の頂上に葛原岡神社があり、その木陰で昼食となりました。各自持参のお弁当やおにぎりを取り出すのは勿論ですが、そのほかにも自慢の漬け物や食後のお菓子が皆の所に廻ってきます。これこそ中高年ハイキング独特の食事風景でしょうか。

さて昼休みもそこに、化粧坂を左に見ながら源頼朝公の銅像のある源氏山公園へ。ここ

で頼朝公をバックに記念写真。続いて、大仏で有名な高德院へと山を下ります。実は私、大仏の再会でしたが、ずいぶん風雨にさらされ、痛々しいお姿でした。特に、鼻の両側に走る傷は、まるで縫った跡のように見え、露座の大仏おわします」と歌にはあるものの、せめて覆い堂でも作らないと崩壊するのではないかと心配です。ここでまたまた記念写真。

参拝を終えて江ノ電長谷駅までの道はとんでもなく狭く、しかもダンプ街道でもありました。夏場は車が動かなくなるそうで、ここに住むのも良し悪しと思いましたが（別に住む予定はありませんが……）。スケジュールから20分近く遅れてJR鎌倉駅に到着。残り35分で鶴岡八幡宮参拝組と駅近辺買い物組に分かれ、私は若宮大路の段葛を久しぶりの速歩で一目散。階段脇の大イチョウが先般の大風で倒れたことはニュースになりましたが、オーツ何という生命力。

元の位置に植えた若枝は、これでもかと言うくらい生い茂り、手前に移植した巨木の残骸からも若芽が吹き出していました。どんなに科学が進歩しても、人間の生命力は植物には敵わないことを改めて思い知らされました。

駅に集まると、何人かは鳩の形をしたお菓子の手提げ袋を持っていました。あの混雑したお店で並んで買って来たようで、首は替わっても相変わらずの人気です。



帰りの電車は逗子始発で全員が座れ、半分眠りながら大宮へ。ということで、約1万7千歩のハイキングも、無事終了となりました。またいつか、卓球部の催し物の様子をご紹介しますしよう。

なお、大宮解散後、反省会があったかどうかは、ご想像にお任せします。(角田 進)

## 専科第一期校友会第二回理事会開催!

(6月11日)

出席者 田中、北氏、大阿久、相場、吉野、斉藤

小林、安藤、天谷、岡村の10名の理事

まずは、田中校友会会長の盛り沢山の議題の説明から入り、順番に議事進行となりました。

議題1、伊奈連協報告事項

(1) 5月13日 伊奈連協総会 行

事予定、グラウンドゴルフ大会・ダンスパーティ・合同研究会・いきいきフェスティバル・学園祭について説明

(2) 専科校友会会員が参加するものだけホームページ用原稿取材を行う。一部担当をきめた。

議題2、合同研修(11月26日実施)について

(1) 実施計画案と役割分担表も作成されたこと。

(2) 専科としては、19期が主体となって行うので、そちらの要請によって動くことにして、理事の協力要請をおこなった。

議題3、ミニ広報誌の発行とメールنگリストについて

(1) ミニ広報紙第一号をメールングリストで送ったところ、次のような問題点が明らかになった。

メールングリストは各コース別に作成されているので、広報部長(郷土コース)がミニ広報紙を健康コースとまちづくりコースへ配送しても届かない。従って、各コースの副会長に送るので、各部長から会員にメールングリストで配布することにした。

ミニ広報紙をパソコンで作成しているが、受信側のパソコンの機種によって機能の違いもあり、添付ファイルが開けない方が見受けられた。これについては個別的対応で解決してきた。各コースで対応してもらおう。ホームページに掲載しているので見てもらうことアドバイスすることもお願いした。

議題4、専科ホームページについて

(1) 各クラブ活動について原稿依頼をした。

(2) 専科校友会ホームページはマンション形式で一期から全期にわたり一つのページを開けば全期見られるものを目指していることを説明する。

議題5、**第一回専科校友会交流会**

8月25日(土) さいたま新都心「ラフレさいたま」 11時~13時 会費三千元  
各コースの副会長が案内して人数を把握しますので**皆さんの参加をお待ちしています。**